

8月9日 @Ntcc 録画 原稿 能城一郎

タイトル： 救ってくださる神への希望

聖書箇所：コリントの信徒への手紙二 1章 10節

まず初めに、2018年1月1日に頒布された、「聖書協会 共同訳聖書」のコリントの信徒への手紙二の1章8節から11節をお読みします。

【聖書協会 共同訳】(2018年)

コリントの信徒への手紙二

1章8節 きょうだいたち、私たちがアジアで遭った苦難について、ぜひ知っておいてほしい。私たちは、耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失い、

1章9節 私たちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。

1章10節 神は、これほど大きな死の危険から私たちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょう。これからも救ってくださるに違いないと、私たちは神に望みを置いています。

1章11節 あなたがたも祈りによって、私たちに協力してください。それは、多くの人々の祈りにより私たちに与えられた恵みについて、多くの人々が私たちのために感謝を献げるようになるためです。

10節には、「救ってくださったし、・・・」、「救ってくださるでしよう」、そして、「救ってくださるに違いない」と、3回、「救い出す」ということばがつかわれています。この「救い出す」は、人が直面する実際の禍から救い出すという意味で、たましいの救いと区別されます。

たましいが救われるためには、福音を伝える人がいなくてはなりません。また、それを、祈りで支える人々、実際的な援助協力が必要です。11節の「あなたがたも祈りによって、私たちに協力してください。」、このことばは、愛に基づいた助け合いの麗しさを物語っています。

「救ってくださったし、・・・」は、過去のこと、「救ってくださるでしよう」は、願望形、そして、「救ってくださるに違いない」は、確信に満ちた使徒パウロの信仰の告白

と理解することができます。過去、現在、そして、未来永劫へと、途切れることのない神の恵みの満ち溢れた世界観を、10節は描き出しています。

2001年9月11日の同時多発テロ事件の直後、アメリカの大統領は、詩篇23篇を国民に向かって朗読しました。

詩 23:5 私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。

使徒パウロと兄弟テモテは、どのような危機に直面したのでしょうか。8節と9節を見ると分かります。

1章8節 きょうだいたち、私たちがアジアで遭った苦難について、ぜひ知っておいてほしい。私たちは、耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失い、

1章9節 私たちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。

そして、10節で、「神は、これほど大きな死の危険から私たちを救ってくださったし、…」と、過去形で、大きな禍の様子をまとめます。まとめるだけではなく、同じような禍の中で生きているコリント教会の兄弟姉妹たちに、希望のメッセージを伝えます。この希望と励ましのメッセージは、9節にある「それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。」から得られた、信仰の極意に深く関連していると言えます。

先ほど、「救い出す」ということばの説明をしました。“「救い出す」は、人が直面する実際の禍から救い出すという意味で、たましいの救いとは区別されます。”、とお話しました。

ここで、新約聖書の「救い出す」のことばを調べてみましょう。

Col 1:13 御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

2Th 3:2 また、私たちが、ひねくれた悪人どもから救い出されるように祈ってください。すべての人に信仰があるわけではないからです。

2Ti 3:11 また、アンティオキア、イコニオン、リステラで私に降りかかった迫害や苦難に、よくついて来てくれました。私はそのような迫害に耐えました。そして、主はそのすべてから私を救い出してくださいました。

2Ti 4:17 しかし、主は私とともに立ち、私に力を与えてくださいました。それは、私を通してみことばが余すところなく宣べ伝えられ、すべての国の人々がみことばを聞くようになるためでした。こうして私は獅子の口から救い出されたのです。

このように、使徒パウロの身にふりかかった一つ一つの禍を想うと、「私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。」とのことばが沸き上がってくるのは、私だけではないと思います。

ピリピ

4:11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。

4:12 私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

4:13 私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。

クリスチャンが、「救い出す」で忘れてはならないのが、マタイの6章13節です。

マタイ 6:13 私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。

この「悪からお救いください」が、コリントの信徒への手紙二 1章10節で使われています。原語では、「ルーオマイ」と言います。

1章10節 神は、これほど大きな死の危険から私たちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょう。これからも救ってくださるに違いないと、私たちは神に望

みを置いています。

最後に、「神に望みを置く」ということばの説明をします。

1Co 13:7 すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。

これは、「愛の章」といわれるコリント第 1 の 13 章の一部分です。「神に望みを置く」には、キリストの愛で心が満たされている必要があります。

1Ti 6:17 今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置き、・ ・

「神に望みを置く」事を忘れさせるものがあるとすれば、それは何でしょうか。それは、「高慢」というひそかに侵入する誘惑です。この誘惑に陥らないためには、本当の豊かさを与えてくださる。神を知り信じることです。

最後に、もう一度、コリントの信徒への手紙二の 1 章 10 節をお読みします。

1 章 10 節 神は、これほど大きな死の危険から私たちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょう。これからも救ってくださるに違いないと、私たちは神に望みを置いています。

お祈りをします。

ῥύομαι (ルーオマイ) 救出する, (危険から) 救い出す, 救う; かばって保護する, 守る.

ἐλπίζω (エルピゾー) 望む, 希望する, 期待する, 予期する, 待ち望む, 待望する表される.

(c) 織田昭 電子版「新約聖書ギリヤ語小辞典」改訂第 4 版